

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

秋田県 鹿角市立十和田中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

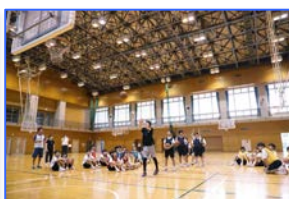
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

■期 日 : 2019年6月27日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (36名) 、2年2組 (36名)

■オリンピアン : 荻原 健司 先生 (スキー/ルディック複合)[出場オリンピック/アルペリル大会、リレハンメル大会、長野大会、ソルトレークシティー大会]

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、最初の1時間は運動を通じて、もう1時間は教室でオリンピックについて学んでいきたいと授業の流れを確認、「エクセレンス：上手に滑る、全力で頑張る」「フレンドシップ：お互いに思いやりを持って取り組む」「リスペクト：ルールを尊重し、守る」の3つのオリンピックバリューを紹介し、これらを意識して取り組んでほしいと伝えた後、準備体操としてランニングやストレッチを、その効果や注意点の説明を行いながら実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・そりリレーを実施。(6班対抗、全2回)。①2人組になり、1人がそり(バスマット)の上に蹲踞の姿勢で乗った状態で紐を握る。もう1人は進行方向を向き、帯状の紐を腰に巻いて(引っかけて)引っ張りながら進む。②折り返し地点に設置したマーカーまで行ったら役割を交代してスタート地点に戻り、次の組へリレー、全組終了し全員が座った時点でゴールとすることをルールとした。作戦タイムを設けながら実施。

4. まとめ



・どのスポーツでも同じだが、単に体力があったり、持久力がある人が必ずしも勝つわけではなく、決められたルールの中でどのようなペアを組むのか、どのような作戦を立てるのか等の工夫が大事であり、そりリレーを通じて皆にも体験してもらったのではないかと振り返り、オリンピックバリューを体現してもらったことが嬉しかったと話し、座学ではオリンピックについてより深く学んでいきたいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・座学の授業では、オリンピックとは何かを考えたいと授業の目的を伝える。
- ・2020年6月10日に皆が住んでいる鹿角市にも聖火が来ると話し、このようなチャンスはなかなかないため、皆に聖火を見てほしいと話す。
- ・聖火はギリシャで火を灯してからランプに入れて飛行機で運び、日本全国を回って最終的に東京の聖火台に火を灯すと説明。

2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックについてのクイズを通し、クーベルタンがなぜ近代オリンピックを開催したのかを説明。
- ・オリンピズムとは「ルールを守り、思いやりがあり、努力を忘れず、責任感と自信を持っていること」、オリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）とは「誰もが身に付けることができる大切な精神である」と話す。
- ・オリンピズムを世界中の人と共有するというクーベルタンの願いと共に、世界平和を目指して始まったのが近代オリンピックであり、オリンピックを観戦する時は、平和な世界を作ることを目指して開催されていることを思い出してほしいと伝える。

3. まとめ



- ・オリンピック選手は一生懸命競技に取り組み、苦しい練習を乗り越えてきたからこそ、その舞台上で活躍することができる。
- ・皆も夢や目標を達成するために、挑戦することを楽しんでほしい。困難にぶつかることもあるかもしれないが、全力で取り組むことで道が拓ける。
- ・東京2020大会では鹿角市に来る聖火を自身の目で見て、オリンピック教室で学んだことを思い出してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 修了証贈呈

